



コアラ保育園
川島 香奈枝

遊びを通して得られるもの

冬の寒さが一層厳しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。
今回は子どもの発達段階における遊び、遊びから得られるもの、遊んでいる子どもへの関わり方についてお話したいと思います。

遊びの発達段階

遊びの発達段階は主に6段階に分けられます。

① 無活動(0ヶ月～3ヶ月)

何もせずぼんやりし、目的もなく身体を動かしたり、興味があるものがあれば見るという時期。
一見何もしていないように見えますが、周囲の世界を一生懸命観察し、刺激を受け学んでいます。

② 一人遊び(0ヶ月～2歳ごろ)

玩具の取り合い以外では他の子と関わることなく、自分だけの世界で遊ぶ時期。
集中力や想像力を育む、社会性の基盤となる大切な時間です。

③ 傍観遊び(2歳ごろ)

他の子どもの遊びを積極的に観察する時期。
観察は、遊びのルールやパターン、他者との関わり方を学ぶ重要な社会的学習の時間です。



④ 平行(並行)遊び(2歳以上)

他の子どもの近くで、同じような遊びをする時期。直接的な交流は少ないものの、“一緒に遊んでいる”という感覚はある状態です。これは後の連合遊び・協同遊びへの重要な橋渡しになります。

⑤ 連合遊び(3～4歳ごろ)

遊びの中で子ども同士のやりとりがあり、道具の貸し借りが出来るようになる時期。自分の意思を伝えたり、順番を待つことで社会的スキルが大きく発達します。

⑥ 協同遊び(4歳以上)

子ども同士が、それぞれに役割を担って1つの遊びを展開する時期。遊びの中に複数のルールを取り入れることが可能になり、子ども同士でルールを話し合うことも出来ます。協同遊びは高度な社会性を育てていくのに重要です。遊びの中でリーダーシップをとる子どもが現れる時期でもあります。

発達とはとても個人差が大きいもので、上記の時期もあくまで目安になります。一人ひとりの成長に合わせて、大人が「こうやって遊ぶんだよ」とお手本を見せることで、コミュニケーションの芽生えを促し、次のステップへ向かえるようサポートしていきたいですね。

「指先遊び」と「集団遊び」

指先遊びは個の能力を伸ばし、集団遊びは社会性を伸ばすことが出来、幼児期における発達にとっても大切な役割を果たします。

そのことを踏まえ、様々な遊びがある中で、今回は「指先あそび」「集団遊び」の2つの遊びに注目してお話していきます。

指先遊び

“手”は多くの神経が集中し、“第二の脳”と呼ばれることもあり、手・指先を通した五感体験は、子どもの発達の土台を育むとても大切な体験です。

具体的には、手の細かい動きや力の加減をコントロールする力を培う・パズルや紐通しを通して「大きさ」「位置」「形」の概念を学ぶなど、脳や心身の発育に大きな影響を与えます。

しかし最近では、日常生活で指先を使って手作業する機会が減り、指先を使う事に苦手意識を持ってしまい、細かい作業に消極的になってしまう子もいるかと思ひます。



いきなり細かい作業を求めず、大きい簡単な動きから始め、少しだけ挑戦できる課題にステップアップしていくといいでしょう。

好きなキャラクターのシールを使ってシール貼りをするなど、興味のある物に関連付けると、更に取り組みやすいかもしれませんね。

もし、上手くいかなくても、近くで「こうやったらどうかな？」と一緒に工夫する姿勢で「結果」より「やってみたこと」を褒めてあげると挑戦意欲が続くでしょう。



集団遊び

幼児期の集団遊びは、「社会の中で自分がどうふるまうか」を体験的に学べる場であり、社会性や感情の土台を育てるとも大切な経験になります。

集団遊びの中にも、

運動系… 鬼ごっこ・リレー・縄跳び

ルール遊び… 椅子取りゲーム・カードゲーム・すごろく

ごっこ遊び… ままごと・戦隊ものごっこ

協力遊び… パラバルーン・整列ゲーム

など、いくつかの種類に分類することが出来ます。

全ての集団遊びにおいて、集団の中で我慢する力・共感する力・自分のしたい事を伝えつつ相手にも合わせる解決する力を養うことが出来ます。

ただ、集団遊びの中でも子どもたちがそれぞれ“好む遊び”“苦手な遊び”があり、もちろん、集団に入ること自体に抵抗を感じるお子さんもいます。

理由は、発達のペースの違い以外にも「恥ずかしい」「見通しが持てず不安」など、それぞれ背景が違います。

大事なことは“無理やり入れる”のではなく、安心出来る環境で少しずつ関わりを幅を広げていくことです。

例を挙げるのであれば、

- 無理に「みんなのところでいこう」と誘わず、「一人で遊んでもいい」と受け止める。
 - 大きな集団ではなく、まずは2、3人の複数人の中で遊ぶ経験を重ねる。
 - 側で見守ることで「近くにいてくれる」と安心感を与える。
- などです。色々な声掛けを試し、その子に合った関わり方を見つけていきたいですね。



繰り返しにはなりますが、子どもの発達は個人差がとても大きい物です。

他の子と比較し、焦ってしまうこともあるかもしれませんが、「出来ない」ことを責めず、楽しみながら自然に経験を積めるように関わるのがポイントになります。

「今は苦手だけど、少しずつ出来るようになっていく」という視点を持つことが安心に繋がりますよ。

「無理なく・楽しく・出来た体験を積み重ねること」を大切にしたいですね。